

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月5日 事業所名 放課後等デイサービスあさひ2号館

	チェック項目	評価		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		散歩なども取り入れて、体を動かす活動も取り入れる。	
	2 職員の配置数は適切である	○		法令を遵守している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	○		支援前のミーティング等で、利用者の目標などの再確認。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	○		日々の保護者とのやり取りで、工夫、改善につなげている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者にもホームページを見ていただくよう、お知らせする。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員会は、設けていないが、関係者の皆様からの意見を参考に改善につとめている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修に加え外部の研修にも参加し、支援の質の向上を目指してまいります。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的にモニタリングや面談において課題を共有し、お子様に合わせた支援計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートやサポートブック、を活用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフで話し合い外出や活動を考え、立案している。	
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		1か月まとめて活動予定表を作成している。新しい活動や前年度の課題を工夫して導入している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		個人にあった課題を職員間で共有し取り組んでいる。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		お子様の特性に合わせた活動で支援に取り組んでいる。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		スタッフで話し合い、当日の取り組み等の確認を行う。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		スタッフで話し合い、当日の取り組み等の確認を行う。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		活動状況や支援の様子を、その日のうちにスタッフみんなで記録している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度のモニタリングをして、お子様の情報共有をし、支援の見直し等を行う。(保護者、相談員、デイ)	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		普段できない体験、活動の提案、将来を見据えた支援を行っている。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		児童館が担当者会議やモニタリングに参加している。可能な時は現場スタッフも一緒に参加し、情報共有を他事業所ともやり取りしている。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		計画相談員さんや保護者と一緒に学校含めての会議を提案、送迎、宿題等は連絡帳や電話、直接のやり取りで共有している。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアが必要な方は現在利用していない。問い合わせがあった場合は計画相談員さんに相談している。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		保護者からの情報共有、計画相談員さんからの情報を共有している。就学前の事業所、園には保護者の許可のもと、情報共有を行うことは可能である。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		保護者の許可を得たうえで移行される事業所や計画相談員さんと一緒にデイでの状況やお子様の様子を共有する場を設けている。	まだ障害福祉サービス事業所等への移行する利用者様がいらっしゃいません。移行する際には情報共有、相互理解に努めてまいります。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて相談や研修の参加、連携をしてよりよい支援に努めている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園、きょうだい児など、いろいろな環境で様々な人と関わる場を設けている。	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		自立支援協議会などへの参加は積極的に参加はできていない。開催のお知らせが来た時には参加していく。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時、LINEや電話などで都度状況や様子の共有を行う。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	○		直接面談や電話等で相談、会議、面談、関わり方や対応方法を行う。	
	保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。活動で生じる負担金は、予めお知らせして説明している。
31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		電話、LINE、連絡帳、来所して面談等色々な方法で対応して、必要に応じた対応を行う。	
32 父母の余の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナも落ち着いてきており、茶話会や秋祭り等を開催している。	
33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○		苦情解決窓口を設け、苦情解決マニュアルを作成し、都度対応している。	
34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		毎月、活動予定表を作成し、配布。お子様へ直接LINEをして発信している。	
35 個人情報に十分注意している		○		研修を行い、十分注意を払っている。今後も意識を高めて努めていく。	
36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		口頭指示や文字やイラストなどで視覚的に提示など、特性に合わせて対応するよう配慮する。	
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		ハロウィンやバザー、秋祭りなどを通して、地域の方との関わりを設けている。	
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを作成し、閲覧できるようにしている。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回は最低行い、都度必要に応じて回数を増やして訓練、研修、対応方法を学んでいる。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内で虐待防止研修を行い、職員間で適切な対応を学び、意識を高めて支援を行う。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		法人内で身体拘束研修を行い、職員間でも適切な対応方法を学び、意識を高めて支援を行う。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時や見学時にアレルギーの有無を確認し、対応する。都度保護者に確認をとり、最善の対応をする。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ミーティング時の振り返りで共有し、ヒヤリハットが起こったときは書類作成をし、共有している。	